



三山 秀昭

広島テレビ放送 顧問
広島大学 特別招聘教授

集中 OPINION

広島サミットをファクトチェック 日本の国際的地位を高める契機に

——今回のG7広島サミットをどう評価しますか。

三山 これ迄核保有国の現職リーダーで広島を訪問したのはオバマ氏だけでした。ニクソンやカーターも来ましたが、彼等が来たのは大統領の任期外です。それが、今回は米、仏、英の首脳に加えて、G20のインドの首相も平和公園で献花をした。「現職」首

脳は核の発射権限を持つ一方、核軍縮を進める決断が出来る立場なので、その意味は極めて重いので

す。これは49回目を迎えたサミットの歴史の中で画期的な事です。そして、ウクライナのゼレンスキー

大統領もサミットに参加した。被爆地としての「ヒロシマ」を横軸とすれば、ウクライナ問題という縦軸が有って、これが交わった。侵略されている国のトップリーダーがサミットに参加するのも初めての事です。国際的な注目度も非常に高いサミットになりました。

——核保有国の首脳が揃って慰霊碑に献花をした事は意義深い。

三山 今回は米英に加え、仏、印の首脳も訪れたのが大きな成果です。フランスはNATOの一員であ

今年5月に行われたG7広島サミットでは、米、英、仏にインドといった核保有国が広島に集まっただけでなく、ウクライナのゼレンスキー大統領も電撃出席する等、改めて世界が核兵器の恐怖や平和について考える契機となった。2016年にオバマ米大統領（当時）が現職大統領として初めて広島を訪れてから7年。当時、外務大臣を務めていた岸田文雄首相にとっても、今回の広島サミットは非常に満足行く結果となったのではないだろうか。そのオバマ大統領の訪日にも深く関わった元読売新聞政治部長で広島テレビ放送顧問の三山秀昭氏に、広島での定点観測者として今回の広島サミットの総括や今の日本の課題等について聞いた。

り、欧米諸国として一括りにされますが、米英とは一線を画す傾有る。イラク戦争の時、参戦に反対し、米国はくなくなった。核大国でもある。問には相当、は、米ソの核て核保有へ、た。今、グロ、広島を訪れた、大きな出来事です。も詳しくはホームページをご覧ください

続きを読むには購読が必要です

